

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290400427		
法人名	みなとの丘グループ株式会社		
事業所名	グループホーム風の丘 1F		
所在地	島根県出雲市小津町23番地1		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	令和元年9月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成31年3月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「とにかく色々な事を試してみよう」「やってみよう」と利用者様への支援を行っています。認知症の方への対応を柔軟に行える様、職員間、ご本人・ご家族・かかりつけ医・医療関係者での情報共有、密な連携を図っています。利用者様が居心地良く、笑顔が絶えない、落ち着ける空間作りを努めています。そして、利用者様が楽しかった、嬉しかった、一度でも多くの笑顔が見れる様に、利用者様の声を大切に、喜んで下さる事を企画しています。例えば食事。外注ですが、月に1回は必ず、「皆様が食べたい食事」を手作りで実施しております。テレビや話題の一環を通し、皆様の声を支援に繋げられる様、職員間で共有し、実施しています。また、ご家族にも報告・連絡を行いながら、出来る限り、ご本人、ご家族の希望に沿える支援し、施設で対応出来る事は全力で取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

小津町あたりには、福祉施設がなかったことから、住民の強い要望から設立された同法人は、海に向かう県道脇の山を切り開き、通所サービス、居宅支援事業所、小規模多機能型居宅事業所など、地域に密着した福祉施設を次々に開設しており、この春、訪問看護ステーションも開設したため、医療との連携がさらに強化された。グループホーム風の丘は、満6年を迎えようとしており、一階、二階とも、利用者さんは、それぞれの居場所でゆったりとくつろいで過ごしており、管理者・職員は、毎日を楽しみ、満足のいくように過ごせるよう、食事やレクリエーション、外出、行事など様々な工夫している。窓からは、自然が眺められ、施設内は清潔で明るく、職員は親切で優しく、笑顔で話しかけている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所、玄関に提示し、職員間で情報共有、意見交換を行いながら、職員は同じ思いで実践している。	職員の思いで作られた理念「尊重し穏やかな生活を彩れる支援」は、御本人を思う御家族にとっても、意義のあることとして職員が感じ、ともに明るく楽しい生活を送れるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方のボランティア、地域行事への参加など、地域の方々との交流の機会が持っている。	近隣地域からの入居が多く、隣接するデイサービスや、小規模多機能型事業所などとの交流も期待できる。近隣の小学校へ学習発表会に観覧したり、踊りや大正琴の慰問なども多く、地域の人々との交流は盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通じて認知症の人の理解や支援方法を積み上げてきている。またひかりカフェを通して、少しずつ地域の人々へ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、家族、地域の方、全職員が順番に一人ずつ参加の元、実践内容を報告したり、意見を聞き、サービスの向上に生かしている。	会議では、ホームの取り組みについて発表したことに対して、出席者から感想や意見も出ており、ともにホームでのケアを良くしていこうという姿勢が現れている。職員をもっと知りたいという要望には、順番に職員が会議に参加するなど地域の人々に信頼され期待もされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に市の方にも参加頂き、実践内容を報告し、意見を伺いサービスの向上に努めている。また、3ヶ月に1回、介護相談の方の訪問、助言を頂いている。	経済的に困難な方や家族の諸事情で入居を待っている人も多く、運営や職員体制などについても市からの助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を中心に、職員間での意見交換、情報共有、疑問を話す機会を設け、振り返りを行いながら、尊厳のあるケアが行われているか検討している。	利用者さんは、それぞれ認知症の状態も異なり、自分にとっては意味のある行動であり、判断力が低下していても、施錠など人としての自由を奪うことなく、さりげない見守りや、同伴での外出などで、危険予防や安全を心がけており、身体拘束は全く見られない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加、身体拘束委員を中心にお互いのケアを指摘し合い、考える様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方には、話し合い活用できる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時、入居前にはご家族へ十分な説明を行い、理解、納得して頂ける様努めている。また入居後においても、都度困っておられる事や相談しながら、速やかに対応している。ご家族と密に連絡をとる様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。ご家族の面会時、運営推進会議での意見交換。介護相談員の受け入れにより、利用者の思いが外部へ表せれる機会を設けている。	御家族は、利用者さんの生活をよりよいものにしたと、様々な意見を言われる。おいしい旬の物を食事として差し入れたりしながら手作りの料理を望んだり、外出やレクリエーションをもっと頻繁にしてほしいなど。職員はそれらを実現するためとりにくんでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の管理職会議、職員会議を行い、意見や困り事をみんなで解決出来る様に努めている。意見や提案通りに行くことばかりではないが、皆が善くする為にはどうすれば良いのかを考えている。	利用者さんが、楽しく快適な生活を送れるように、職員は常に、様々な意見を述べて、検討している。管理者は、職員一人一人と面接して、意見や思いを聞き取る機会があり、話し合いでなんでもやってみようという方針で職員のアイデアが採用されるため、ケアの向上へのモチベーションは高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の声に耳を傾けながら、面談や日々の会話をしながら、職員一人一人が笑顔で働ける職場作りを行っている。また、職員間が何でも話せる環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修担当職員を中心に、他職員の要望を聞き、研修企画、参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内で職員は、施設内研修や応援体制にて、交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供者やご本人との関わりにて、情報収集し、ケアの方向性や対応を職員同士で意見交換、共有しながら関わっている。ご本人の話や声に出せない声を受け止めながら、その方を知る努力をしている。また、普段の関わりより、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には必ず普段の状態を報告し、プラスの声掛けを行う様にしている。また、遠方の方やなかなか面会出来ないご家族には、手紙と写真を送り状態をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、医療機関、居宅介護支援事業所等の意見を踏まえ、グループホームへの入居が最適なのか検討した上で入居して頂いている。ご本人にとって必要なケア、対応を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りの中ご自分で行って頂く様に声掛けを行っている。出来ない所、少し手伝えば出来る所、一緒に行えば出来る所を見極めながら、支援する様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やいつもと違う様子が見受けられた際は速やかに連絡し状態を話したり、意見や希望を伺いながら、方針を決めている。定期的に状況を報告する様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族の情報を元に、馴染みの人や場所、好きな事等を会話や関わりの中に取り入れる様にしている。面会時には、居室でゆっくりと過ごして頂ける様にしている。	地域の要望から生まれた事業所であり、入居者も近隣の方が多い。日常的な外出や、訪れる地域の人々との交流などで、馴染みの場や人との関係は継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の心身の状態や性格に配慮しながら、席の配置を決めさせて頂く。難聴の方には会話の架け橋となる様に努めるなど、孤立しない様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後や、退去後のサービスにおいても、ご本人、ご家族より相談があれば、医療機関相談員等と一緒に支援する様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や会話、日々の生活スタイルからご本人の思いや希望を汲み取る様努めている。	認知症の方の思いを引き出すのは難しいときもあるが、その方の生きてきた物語を聞き取ったり、ご家族からその方の好みや意向を聞き取ったりして、思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書、ご本人、ご家族から聞き取りにより、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズム、過ごし方を尊重しながら、無理強くない、メリハリのある生活を送って頂ける様努めている。心身の状態や変化にも配慮している。また、観察、気づきを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の困り事が課題になる事が多いが、カンファレンスや見直し、気づきより、ご本人、ご家族の思いや気持ちを取り入れながら介護計画書作成に努めている。	介護計画担当者による、家族、本人の意向を踏まえた介護計画は、ユニットの職員全員で検討して個別に作られており、状況の変化に応じて見直し変更がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの把握は職員一人一人が把握しており、日々の生活記録もしっかりと行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の気持ちや思いを元に柔軟な対応を心掛けている。受診付き添い等個別のニーズにあった対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しい時間が持てる様に行事の企画を行っている。ボランティアの方との交流や、地域の方と交流を通し楽しい一時を過ごす頂ける様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医を利用される事で、ご本人及びご家族が安心して医療を受けられる様支援している。	地域におけるかかりつけ医に継続して受診できることは、自ら症状を表現できない認知症の高齢者さんにとっては、早期発見早期治療につながる。受診には必ず職員が同席して、日常の様子を医師に伝えるとともに、医師から医療面での気をつけることなどを伺い、家族にも伝える。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師はいないが、かかりつけ医、協力医療機関に相談し、適切な受診、看護に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に医療機関へ利用者の情報提供を行っている。入院中も管理者がご家族と病院と連絡を密にとり、カンファレンス、退院始動を受け、早期退院に向け支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人、ご家族の意向を踏まえながら、主治医と相談し、施設として出来る事を行っている。そして最後までその人らしい生活が出来る居場所となるように支援する。	利用者さんのかかりつけ医の協力や、訪問看護ステーションとの連携を密にしていき、重度化にも適切に医療につなげるよう取り組んでいる。看取りについても、何度も関係者と話し合っ、適切な対応に心がけるとともに、その方のための特別に大切な時間をもつよう職員全員で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成している。救命救急やAEDの使用について、研修や講習を受けている職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の施設と共に定期的に訓練を行っている。(年2回)地域の方のご協力もあり連絡網もある。	利用者さん参加の避難訓練を年に二回は行い、また、夜間想定のものも実施しており、法人全体で災害に対しての備えを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応を心掛けている。接遇、声掛けにおいては気を付けていても、出来ない事があり、職員の課題になっている。その方に合った関わり方をする様に努めている。	利用者さんは、それぞれに似合う着こなしで、落ち着いた雰囲気でご過ごしておられる。職員さんの声かけや親切で優しい態度は、一人一人を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のペースで自由に活動して頂いている。出来ない所や、フォローが必要な所は何気なく支援出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや無理のない範囲で、メリハリを付けながら支援を行っている。利用者の対応は速やかに行う様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の気持ちを大切に、起床、季節、就寝、外出等、その時々々の場面に合った身だしなみ、おしゃれが出来る支援をしている。その方のお気に入りの副等の把握もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食外注であり、食事の楽しみを感じて頂く為、利用者の声を大切に食べたい物を手作り食にて提供する機会を月数回設けている。味付けや、食材を切る作業は一緒に行う様にしている。	利用者さん家族から、差し入れ野菜や惣菜もあるという。皆でテーブルを囲んで和やかに食事を共にした。味付けも出汁がきいた薄味で、野菜も豊富であった。利用者さんとともに手作りの食事を作る機会を徐々に増やしていき、食べる楽しみも多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は個々に合った対応をしている。水分が入りにくい方は、飲みやすい好みの水分(ジュースやコーヒー統)飲み物の工夫で水分確保に努めている。おかゆでもその人に合ったおかゆの形態にし、安全にしっかり食事が摂れる様努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方はして頂き、出来ない部分、不十分な所は介助を行っている。またポリドントの使用をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、排泄希望の際は速やかな対応を行っている。リハビリパンツ使用にて、トイレでの排泄、ポータブルトイレでの排泄を行っている。排便においては下剤の調整、水分摂取の確保を行っている。トイレ希望が訴えられない方は、適宜誘導を行ったり、サインや仕草を汲み取っている。	利用者さんのほとんどが、失禁をされるが、それぞれの排泄パターンを把握しており、さり気なくトイレに誘うことで、自然な排泄ができるよう介助している。トイレは清潔で、尿臭などもない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前午後の運動、水分摂取の確保の働き掛けを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回対応している。その他、希望があった際、汚染時は入浴にて清潔の保持を行っている。その方の希望時間やタイミング等で入浴の流れを作っている。	浴室は明るく清潔である。入浴を保清のためだけでなく、お風呂の温度を一緒に見てもらう、お風呂の雰囲気をよくするなど、リラックスした、楽しい時間となるよう、職員が日々工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡時以外は皆様離床されている。午睡も長くされる事なく、少し臥床し休息される程度。夜間は人によって眠りに入られる時間は異なるが、どの方も6時間程度は眠っておられる。不眠の方には安心の声掛けや、眠れるまで一緒に過ごす等の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との連絡や、お薬服用前後の様子を報告しながら、状況の把握を行っている。薬の成分については、お薬説明書を確認したり、先生より効果等を聞いて理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意な事、好きな事を負担とならない様取り組んで頂いている。月1回は必ず行事を取り入れ、一瞬でも楽しんで頂ける場を提供している。小さな話題から、膨らまして皆様が会話に参加出来る様架け橋となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候やご本人の体調を考慮しながら、季節に応じて外出したり、ドライブを計画している。外へ出掛ける事を好まれない方がおられるが、施設の周辺や隣接の施設へ出掛ける機会を設けている。	ホームから民家のある町までは、数百メートルあって、歩いて町には出かけられないが、ホーム周辺の散歩や車での外出など日常的に外出しており、広報誌で発信しているようにホームに閉じこもらない暮らしとなっている。海辺での花見の計画も進んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人管理はトラブル防止の為に遠慮頂き、必要な物があつた際は預り金から購入させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を保持されている方が1名おられ、自由に電話出来る様、適宜充電等を確認している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内に季節感を感じてもらえる様に、作品等の飾り付けを行っている。毎日の掃除、温度、湿度の管理、換気を行いながら、心地良く過ごして頂ける様努めている。	窓から自然の緑が見渡せるホールは明るく清潔であり、オープンキッチンで湯茶や料理が出来る家庭的な雰囲気である。ソファやテーブルなど居心地良く過ごせるよう配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには3つのテーブルがあり、個々の状態、心身の状態、性格に配慮しながら、配置を決めている。また、施設内ソファや椅子を色々な所に置き、落ち着ける居場所、空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の生活に合った、居住空間をご家族様に相談したり、職員間でも安全に生活頂ける様検討している。ご家族に入居の際、馴染みの物等を持ってきて頂く様、お話ししている。	個室は、窓から自然の風景が眺められ、明るく清潔である。利用者さんはそれぞれにプライベートな空間を居心地良く過ごせるようこと、家具や椅子ソファ、テレビなどをしつらえており、壁には写真や絵が飾ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を分かりやすく提示したり、自席⇄居室を迷わず通える様目印を貼る工夫をしている。少しの工夫で出来る事が増えている。		